

学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業 実践記録

研究主題 いかす つながる ことばの力

高知市立はりまや橋小学校

実践概要：

本校では、平成30年度より高知県教育委員会「学校図書館を活用した『読み』を鍛える拠点校事業」の指定を受け、その推進校として研究に取り組んできた。まず全教職員で「読解力」とは、従来型の読解力の概念に育成を目指す資質・能力として言語能力と情報活用能力を加え、情報を理解し、整理・比較・関係を捉えることにより、自らの考えを形成し、さらにその考えを表現する力と押さえた。そして、その読解力を向上させる方法として、図書館資料や新聞の活用を通して語彙力の育成や言語活動の充実、情報活用に関する指導の充実を図り、意見や考えを交流し合って主体的・協働的に学ぶ探究的な授業改善を行った。毎年全学年が公開授業を行い、全員で実践を共有して研究を深めていった。

キーワード： 付けたい力を明確にした授業づくり、言語活動の充実、図書館資料の活用、単元のゴールイメージの共有、系統的な指導、「わかる」から「できる」へ

1. 研究仮説

〔目指す児童〕

- 自分の意思を進んで豊かに表現する子
- 相手の意思を理解し、共感できる子
- 主体的に課題を捉え自力で解決しようとする子

〔目指す集団〕

- 互いの個性を認め合う共感的人間関係
- 主体的に課題を捉えて解決できる自治的な集団
- 豊かなことばで意思の通い合う

〔Good communicators〕

以上の児童と集団は、対話やコミュニケーションによる相互理解と意思決定の経験を土台として、目標や目的を明確にした問題解決・課題実現・協働的な学習を継続することによって育てることができるであろう。そして、これらの基盤である言語力（ことばの力）の育成が読解力の向上につながるものではないかと考える。

2. 実践方法

(1) 伝え合う力の育成

（指導の共通化・言語技能シートの活用）

- 言語技能の指導…話す・聞く・書く・伝え合うの観点から目標と内容を系統的に示した言語シート内の話型を教室に掲示し、活用することにより段階的・継続的に基本的な言語技能を身に付けさせる。

(2) 対話的な学びの方法の研究

（言語活動の創意工夫）

- 言語活動の中で対話的に学ぶことによって、考えを的確に分かりやすく表現できる語彙を知り、互いに思考を深め合ったり人間関係を豊かに築いたりする言語力を身に付けさせる。

(3) 図書館資料・新聞等を有効に活用した授業改善

- 学校図書館の計画的利用による読書活動の充実と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善によって、図書資料及び新聞を生かして言語能力や情報活用能力を育成する。

(4) 授業研究(PDCA 確立)の充実

- 授業構成や指導の共通化を図るために、身に付けさせたい資質・能力を明確にした目標設定と課題を考えるとともに、語彙や言語力を身に付けさせる言語活動の内容を考える。そして、学力差を考慮した手立てや支援を取り入れる。授業づくりのスタンダードに視点を当てた授業研究を行うことによって、目標と指導と評価の一体化を図り、授業づくりと授業改善のPDCAサイクルを確立する。

3. 実践内容

(1) 「学校図書館の活用を通して付けたい力システム表」を作成

子どもたちが課題を解決するためには、それぞれの過程でどのような活動をすればよいのかという情報の読み方や、情報を活用した学び方を、具体的に理解して活動していく必要がある。いくら課題解決の過程を理解していたとしても、資料リストなどを利用して資料を探す、目次や索引を使って情報を見付ける、読み取った情報の要点を記録するなどの具体的なスキルがなければ自ら課題を解決することは難しい。そこで、課題解決の過程とそれぞれの過程で必要な力を具体的に示した「学校図書館の活用を通して付けたい力システム表」を作成した。各学年でこのシステム表を基に学校図書館を活用することで、課題解決の過程を意識した学習が展開できる。更に、子どもたちにどのような力を付けなければならないのか、またどのような力が付いたかを指導者が意識することができ、系統的な学習活動や読書活動につながると考えた。

また、付けたい力は「知る・つかむ・集める・選ぶ・まとめる・伝える・振り返る」とした。例えば「集める」の中では、「情報の読み取り」があり、その「情報の読み取り」において、身に付けさせたい力を系統的に示し、低学年は「ことばや絵、写真から分かる事実を読み取る」、中学年は「文章、絵、図

表、写真、グラフから分かる事実を読み取る」
 高学年は「文章、絵、図表、写真、グラフから分かる事実を比較しながら読み取る」とした。
 これらを該当学年の年間の授業計画の中に位置付けて指導し、身に付けさせて上学年に向かって継続していくようにした。

また、図書館資料による情報活用能力の観点ごとの低中高系統表を作成し、単元指導計画に位置付けて取組を進めた。

☆平成30年度

[]は左表1の「学校図書館の活動を通して付けたい力系統表」で示した項目

付けたい力		
中学年		
知る	情報モラル	○資料などを利用した時には、出典を明らかにする必要があることを知る。 ○一つの情報だけでなく、複数の情報を比較し判断する必要性について理解する。
	きまり・マナー	○学校図書館のきまりやマナーを守り、目的をもって学校図書館を利用する。
	分類	○図書の種類や仕方を知り、必要な資料を探す。
つかむ	公共図書館	○公共図書館のきまりや分類、配架、レファレンスサービスについて知り、きまりやマナーを守って利用する。
	課題設定	○興味・関心に応じて具体的な学習課題を作る。
集める	学習計画	○課題解決のために、見通しをもった学習計画の立て方を知る。
	選書	○表紙、題名、作者、著者名、目次、冒頭部分等に着目して図書資料を選ぶ。
	図書館資料利用	図鑑 ○図鑑の特徴や構成を知り、図鑑を利用して課題を解決する。 辞書 ○国語辞典、漢字辞典の構成や使い方を理解し、利用する。 地図帳 ○地図帳の構成や使い方を理解し、利用する。 事典 ○百科事典の構成や使い方を理解し、利用する。
	図書館資料以外の利用	○要点をメモしながら聞き方を工夫してインタビューしたり、手紙でたずねたり、アンケートをとったりして情報を集める。 ○必要に応じて、新聞、パンフレット、リーフレット、ファイル資料、音声や映像資料を利用する。 ○デジタルカメラなどを活用し、情報を集める。
	目次・索引の利用	○目次や索引を使い、必要な情報を見つける。
	情報の読み取り	○文章、絵、図表、写真、グラフからわかる事実を読み取る。
	要約	○必要箇所をカードやワークシートなどに箇条書きで要約する。
	要旨	
	出典	○日付や資料の題名、著者名、出版社名、出版年、該当ページなどを記す。
	選ぶ	情報の整理
まとめる	情報の選択	○二つ以上の情報から、目的に合ったものを選ぶ。
	引用	○引用の仕方を知り、必要に応じて文章、絵、図表、写真、グラフなどを引用する。
	情報の加工	○情報からわかったことや解決したこと、考えたことなどについて構成を工夫して文章、絵、図表、写真、グラフ、地図などを使ってまとめる。
	伝える	情報の表現・伝達
振り返る	学習活動の評価	○学習の過程と結果(内容)について評価する。 (課題の作り方、情報の集め方、情報のまとめ方、情報の伝え方) (自己評価、総合評価)

表1 学校図書館の活動を通して付けたい力系統表 (中学年)

(2) 授業実践

「付けるべき力を明確にした言語活動の充実を図るために、実現すべき授業とはどのような授業であるのか」を、高知市教育委員会学校教育課のスーパーバイザーと指導主事に学習指導案検討の段階から協力頂き、授業づくりに取り組んだ。まず、系統の確認を行い、その単元で付けるべき力を捉え、言語活動の設定を行った。次に、児童が見通しをもって、最後まで意欲的に学習に取り組めるよう、ゴールイメージの共有を図り、単元計画を立てた。学習指導案作成後は、学年団の協力のもと、事前授業を行い、さらに授業に磨きをかけた。そして、本時の授業後は事後研究会で協議をし、それぞれの課題を踏まえて次の授業に取り組めるよう意識してきた。授業研究によって、①単元のゴールを明確にすること②第二次の読みが第三次の表現につながる③目的的に図書を活用することを、授業づくりの重点的視点として、全体で共有することができた。

1年「すきなもののクイズをしよう」
 ○ 図書館資料の中から好きな動物を選び、観点に沿ったヒントを考えクイズ大会を開く。
 [情報の読み取り] ことばや絵、写真から分かる事実を読み取る。

2年「教えてあげようおもちゃの作り方～教え方名人になろう～」
 ○ 図書館資料の中から、1年生に教えてあげたいおもちゃの作り方や遊び方を読み取り、「おもちゃブック」を作成し、1年生に手作りおもちゃの作り方や遊び方を分かりやすく説明する。
 [情報の加工] 情報から分かったことについて、簡単な構成を考え、絵や文章などでまとめる。

3年「お気に入りの本で紹介カードを作ろう」
 ○ 図書館資料の中から、好きな本を選び、観点に沿った紹介の仕方を考え、友達と伝え合う。
 [情報の表現・伝達] 相手や目的に対して適切な方法を選んで表現・伝達する。

4年「見つけよう！伝えよう！身の回りの和と洋」
 ○ 図書館資料から必要な情報を比べて読み取り、適切な文章を引用して「くらしの中の和と洋ブック」を作り、読み合う。
 [引用] 引用の仕方を知り、必要に応じて文章、絵、写真などを引用する。

5年「『和の文化の伝達者』になろう」
 ○ 図書館資料から必要な情報を集め、整理引用して「和の文化」をグループで4年生にプレゼンテーションを行う。
 [情報の表現・伝達] 相手や目的に対して適切な方法を選んで工夫して表現・伝達する。

6年「感動の中心をとらえよう」
 ○ 同一の作者の作品を多数読み深め、授業で得た力を使って、それぞれの物語の「人物関係図」を作成し、友達と交流する。
 [情報の表現・伝達] 相手や目的に対して適切な方法を選んで工夫して表現・伝達する。

☆平成 31 年度

1 年「つたえよう、 みつけよう、 みのまもりかた」

- 図書館資料の中から、自分の好きな動物を選び、読み取った動物の身の守り方を問いかげに対応させて自分のことばで説明する。

[情報の読み取り] ことばや絵、写真から分かる事実を読み取る。

2 年「お気に入りの本を紹介しよう」

- お気に入りの本を紹介するために、話す事柄を考えて、順序よく話し、話し手が伝えたい大事なことを落とさないように興味をもって聞く。

[情報の表現・伝達] 相手や目的に対して、適切な方法について知り伝える。

3 年「働く犬のリーフレットを作って、2 年生に紹介しよう」

- 図書館資料から紹介したい働く犬について調べたことを要約し、リーフレットにまとめ、2 年生に紹介する。

[情報の加工] 情報から分かったことや解決したこと、考えたことなどについて構成を工夫して文章、絵、図表などを使ってまとめる。

4 年「戦争をテーマとした本を読んで、ブックトークをしよう」

- 戦争をテーマとした二つの物語のつながりを考えて読み、共通の観点を決めてブックトークで伝える。

[情報の表現・伝達] 相手や目的に対して、適切な方法を選んで工夫して表現・伝達する。

5 年「オリジナルファンタジーを出版しよう」

- 様々な表現の工夫について理解し、効果的に用いて物語を創作し、出版する。

[情報の表現・伝達] 相手や目的に対して、適切な方法を選んで工夫して表現・伝達する。

6 年「将来の夢や生き方について考えよう」

- 文章を読んでそこに書かれた人物の生き方や考え方から、自分の将来の夢や生き方について考え、文章にまとめる。

[情報の整理] 情報を比較、対象、分類し、自分の考えを整理する。

4. 成果と課題

2 年間の研究の成果として、

- 単元の導入を工夫することにより、子どもたちの意欲付けを図ることができた。
- 第二次の読みが、第三次の表現につながる単元構成ができた。
- 目的に応じて授業に資料を取り入れて、活用することができた。

- 課題に対して自分の考えをまとめる時間を保障することで、一人一人が意見をもって話し合いに参加することができるようになった。
- ペアやグループの対話の時間を多く取り、話し合いの仕方を見せることによって、書いたものを「読む」のではなく、自分の言葉で伝えることができるようになってきた。
- 課題を明確にして、できるようになったことを書く振り返りや、学習後の成果物で、一人一人の学びを評価することができた。

また、12 月に行われた高知県学力定着状況調査 4 年生の「国語」の正答率は、全国正答率より「話す・聞く」の領域で 10%、「書く」の領域で 15%、「読む」の領域で 3%と、それぞれ高い結果が見られた。

特に、

- ☆ 分かりやすく説明するために事例などを挙げて書く。
- ☆ 段落相互の関係などに注意して文章を構成する。
- ☆ 目的に応じて、書こうとすることの中心を明確にして書く。

という問題の正答率が高く、これも自分の意見や考えを交流し合って主体的・協働的に学ぶ探究的な授業づくりの成果である。

今後の課題としては、対話という活動そのものに抵抗をもつ児童は減ってきたが、目的意識や相手意識をもって、意欲的に活動しているかという点では課題が残る。伝達と合意に留まらない主体的で深い学びをもたらす対話を目指し、そして、児童の「聞きたい」「話したい」を引き出す研究の在り方を考えていきたい。



写真 1 グループで話し合う様子

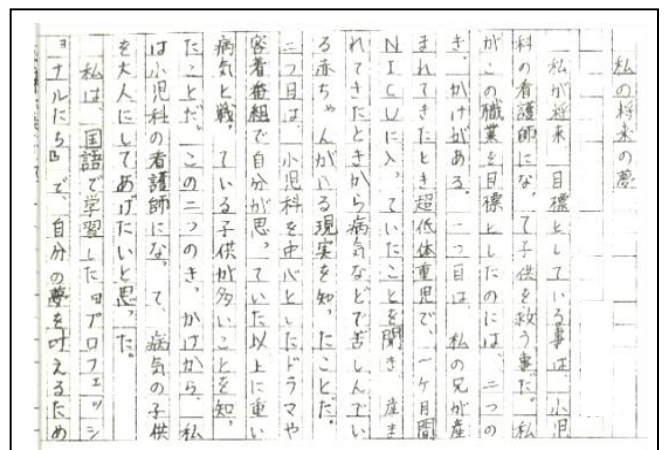


写真 2 学習成果物